

Vol. 5, No. 1 1970. 9. 15

大学のオアシス

中 条 博

巻 頭 言	1
ニュース	2
えつらんしつ	3
館内日誌	6

トショートショカン

大学図書館は、大学社会のもっとも重要な知的資源でなければならない。図書館法第3条が図書館の諸奉仕について懇切、丁寧に規定し、これを強調したのは自明の理にぞくする。図書館は、教育指導計画を十二分に支持することは当然のことながら、更に、高度の研究に従事する上位の教授から高等学問の敷居をまたいだばかりの新入生に至るすべての利用者の、適切妥当な諸要求に応ずるよう、生涯にわたるよい読書習慣を身につけるように、学生を刺激し、鞭撻し、その本来の使命と役割を演ずるよう努力しなければならない。かくしてこそ、図書館の機能は、全面的に発揮され要望に答えることができるのである。

『図書館は、大学のオアシス』という言葉は、私の若かりし東大時代、恩師鳩山秀夫先生からきいた。先生は、雄弁でも能弁でもなかったが、重厚なゆっくりした先生独特の風格あるポーズ、ジョウクにとんだ話術が、今でも彷彿として脳裡を去来する。忘れがたい思い出の教室風景のひとつこまである。私の東大在学中の生活の根拠は古色蒼然たる図書館であった（図書館は大正大震災で灰燼にきし、バラックの図書館に変貌したのは思い出の種である）。私は午前7時半頃、図書館前で今や遅しと開館をまつ。8時の開館と同時に入場し、一番奥の席を占拠し午後7時頃まで頑張り通した。その間、講義をきき勉強にいそしみ、好物の15銭也のライスカレーに舌鼓を打った。疲れると、三四郎池の周りを散策、興至れば、不忍池から遠く上野公園をブラチャーレンし、浩然の気を養った。小野清一郎、田中耕太郎の両先生も、当時は、新進気鋭の少壮教授として潑刺として精力的に活躍されていた。鳩山先生の愛弟子として自他ともに許した我妻栄先生は、頗るスマートでやさしい口調で、イエリングの Kampf ums Recht (権利のための闘争) を明快に訳読されていたことを覚えている。今は昔、いとも静かな、恵まれた環境において、人間形成に精進できたことを心から感激している。

さて、愈々待望のオアシスが大学人の協力により創建されようとしている。本学が創立80周年記念事業の一環として、新図書館の建設を発表したのは、今から5年前である。思えば長い、けわしい道のりであった。言語に絶する艱苦を逆に躍進の転機とするため関係大学人はどれだけ苦勞を重ねてきたことか。

図書館建設準備委員会苦心の労作とも称すべき新図書館の全貌（その青写真）は、すでに大学々報により報道公示され、教職員各位、ならびに学生諸君の建設的提案（とくに青野ゼミの学生諸君の提案には敬意を表したい）はできる限り尊重し、これを踏まえて、極めて快適な環境にめぐまれた名実ともに大学のオアシスに値する立派な近代的図書館作り

に邁進したいものである。
(法学部教授)

■ 会議報告

◎第22回図書館建築準備委員会

昭和45年4月10日 P.M. 2~5.30分

於 父兄会館 出席者 15名

- 議題 (1) 図書館建設に関する件
(最終設計案, 変更の件等)
(2) その他

まとめ

建築準備委員会としては最終に答申した(第14案)の変更があり, 増加した坪数とそれに伴う図面の変更案を各教授会にはかって調整し, それを学生に発表し, その際, 学館との関係もあり, 当委員会はアピールする場合は一本化して掲示する様に学校当局に要望する。

◎第23回図書館建築準備委員会

昭和45.6.5(金) P.M. 12~2.30分

出席者 11名

- 議題 (1) 新図書館の設計図の掲示及びその場合の文章と場所について

まとめ

- (1) 種々の問題が発生した場合は建設準備委員会の責任ではない。
(2) 公示場所は中央掲示板及び図書館内とする。

◎昭和45年度第1回図書選択委員会

昭和45.5.19(火) P.M. 2~4時

第2会議室 出席者 16名

- 議題 (1) 昭和45年度図書選択について
(2) その他

まとめ

- (1) 昭和45年度の図書選択については, 従来通りの方法で執行することに決定された。(書店に outward の購入及びパンフレットによる購入, 見計らいを含む)
(2) その他
① 基礎設備助成金の内図書購入に関する件は5月末日までに具体的に書名リストによる申請を図書館に提出し, 以後選択委員会で検討することとなった。
② 昭和45年度第1回学生希望図書及び雑誌購入に関する件は, 別紙学生希望リス

トの内雑誌の「商業界」が保留になった他購入決定をみた。

◎昭和45年度第1回図書館建築準備委員会

昭和45.5.13 P.M. 2~5時

場所 父兄会館 出席者 11名

議題 昭和45年度図書予算について

まとめ

図書費 白山4,100万円

川越1,000万円

に決定した。但し補正の段階で4,000万規模を要求することになった。

■ ニュース

◎ 5月6日新著作権法が昭和45年法律第48号として公布され, いよいよ明年1月1日から施行されることになった。

◎ 7月15日午後1時より図書館建設予定地に於て地鎮祭が行なわれた。

鹿島建設の施行で新図書館完成は来春4月の予定。

◎ 図書館工学部分館 9月7日開館の予定。

かねて工事中の図書館工学部分館は順調な経過をたどり, 6月30日に請負の鹿島建設から引き渡しを受け, 現在内部整備の段階で, 9月7日の開館を待つばかりとなっている。

建物は鉄筋コンクリート造と2階建, 総面積1,441.67平方メートル(445.75坪) 1階に書庫, 複写室, 暗室, 応接兼分館長室, 館内放送設備, 事務室, 2階に目録室, 大閲覧室, 参考コーナー(計186席), 教員閲覧室(12席), ロッカールーム, 休憩コーナーがあり, そのほか空調設備, 書庫用エレベーターもある。

工事費については建物及び付帯工事が6,700万円, 什器備品が860万円, 合計7,560万円。蔵書は10万冊収容でき, 閲覧座席は204席で学生12.3名に1座席が与えられる。

■ 奉仕の窓口から

国立国会図書館利用案内 (1)

国立国会図書館のマイクロ関係業務は、資料の増加に伴って活発となり、利用者の依頼に対する文献複写サービスもそれに従って拡充されてきている。

現在、科学技術資料室にマイクロフィルム及びマイクロフィッシュリーダー 11 台を備えたリーダー室及びマイクロ新聞閲覧室がある。

収集されているマイクロ資料の主要なものは、

(1) 科学技術リポート類

アメリカ商務省の科学技術情報クリアングハウス発行の AD リポート (国防省関係)、PB リポート (一般研究機関関係) を始めとして、原子力関係リポート (10 万件)、航空宇宙関係資料 (1 万 5 千件) 及びアメリカ学位論文 (3 万 5 千件)。

(2) アメリカ政府刊行物

アメリカ連邦政府刊行物及びノン・デポジトリ資料総数 11 万枚が収集されている。

(3) 雑誌バックナンバー

原本で入手できなくなった雑誌バックナンバーで、マイクロフィルムは 7 タイトル約 120 リール、マイクロカードが 8 タイトル約 1,500 枚。

(4) 新聞マイクロフィルム版

本邦 57 紙のマイクロフィルムのネガ・ポジ各 1 本づつが収集されている。

(5) 文書類

憲政資料関係文書及び日本陸海軍文書類。

以上の文献複写を希望される場合は、フィルム撮影、フィルムプリント、フィルム及びフィッシュからの引伸し等のサービスが受けられる。

ゼロックス、エレファックスの複写
利用法

45. 4. 13 日

(1) ゼロックス

(イ) 図書館所蔵資料の複写を必要とする場合は、その図書 (雑誌等) を所蔵している閲覧室で所定の申込用紙に必要事項記入の上

係へ提出して下さい。

本学図書館所蔵以外の図書及び資料は直接複写に申し込んで下さい。

(ロ) 原則として複写物は翌日の午後 2 時以降に引渡します。

代金は直接経理部に支払って下さい。

(ハ) ノート類の複写はいたしません。

(2) エレファックス

(イ) 教育、研究、学習を目的としてかつ本学図書館所蔵資料に限り依頼に応じます。

(ロ) 原則として 10 日以降に引渡します。

■ 新図書館の概要

新図書館、面積・座席数表

階	室 名	面 積	座 席 数
B1	休 憩 室	13,056	
	電 気 機 械 室	210,353	
	小 計	223,409	
MB1	倉 庫	24,041	
	階 段	24,041	
	小 計	48,082	
1	整 理 室	138,882	
	総 務 室	135,776	
	ロ ッ カ ー 室	32,560	
	予 備 室	29,182	
	図 書 選 択 室	49,740	
	館 長 ・ 応 接 室	32,560	
	便 所	22,811	
	階 段	23,310	
	そ の 他	58,928	
	小 計	523,749	
2	参 考 ・ 雑 誌 室	375,589	132
	目 録 展 示 室	99,444	
	閲 覧 事 務 室	62,880	
	コ ピ ー 室	30,261	
	出 納 コ ン ト ロ ー ル デ ス ク	47,400	
	新 聞 ・ 雑 誌 展 示 室	60,680	
	ロ ッ カ ー ル ー ム	31,478	
	階 段 室 (北)	23,310	
	便 所	22,811	
	階 段 室 (南)	24,550	

	西 階 段 そ の 他 小 計	59,948 153,022 991,373	
3	第 1 閱 覧 室 第 2 " 第 3 " 暗 室 子 備 室 休憩コーナー 階 段 室(北) 便 所 階 段 室(南) そ の 他 小 計	375,589 187,941 230,683 7,800 24,240 64,080 23,310 22,811 24,550 60,404 1,021,408	210 102 126
4	第 4 閱 覧 室 第 5 " 教 員 " 特 別 " 第 1 演 習 室 第 2 " 第 3 " 視 聴 覚 室 階 段 室(北) 階 段 室(南) 便 所 そ の 他 小 計	375,589 118,888 92,781 95,160 32,040 26,640 26,640 89,983 23,310 24,550 22,811 93,016 1,021,408	210 54 29 48 20 16 16 30
5	階 段 室(北) 便 所 電 気 機 械 室 階 段 室(南) 小 計	22,200 22,811 9,010 15,540 47,361	
1~9	書 庫 建 築 面 積	200,490×9= 1,804,410 1,221,898	(キャレル) 24 人
	延 床 面 積 (小 計) 書 庫 ピ ロ テ ー そ の 他 計	3,876,790 1,804,410 497,659 57,450 6,236,309	1,017

■ 1969 年度 参考室統計

1969. 4. 1~1970. 3. 31

(1) 開館日数 225 日

(2) 推定入室者数

(イ) 11,957 人 (延べ人員)

(ロ) 53.1 人 (1日平均)

(3) 参考質問に関する分析

(イ) 内容について

質 問 内 容	件 数
文献調査	33
所蔵・所在調査	258
記載事項調査	64
その他	1
合 計	356

(ロ) 利用者について

利 用 者 内 訳	人 数
学 生	307
教職員	31
一 般	5
その他	0
合 計	343

(ハ) 文献調査の内容

分 野	件 数
図書館・書誌関係	3
哲学、心理学、倫理学、宗教	2
歴史、伝記、地誌、紀行	4
社会科学一般	2
自然 "	4
農林、水産、商業、交通	4
芸術、芸能、スポーツ	0
語学一般	0
文学一般	14
合 計	33

(4) 相互サービス関係

内 容	件 数	A	B
所蔵調査	33	22	11
文献調査	9	6	3
文献複写	59	54	5
そ の 他	5	3	2
合 計	106	85	21

Aは本学から他大学・機関へ依頼したもの。

Bは他大学・機関から依頼を受けたもの。

■ 読書コーナー 三島由起夫書誌

- 花田 清輝 「聖セバスチアンの顔」(文芸, 昭和 25.1)
- 三好 十郎 「四人の作家」(文学界, 昭和25.9)
- 野 間 宏 「三島由紀夫の耽美」(文学界, 昭和 26.2)
- 佐々木基一 「三島由紀夫論」(近代文学, 昭和26.8)
- 林 房 雄 「『禁色』を読む」(群像, 昭和 26.11.12)
- 中島 健蔵 「解説」(現代日本小説大系別冊 3, 昭和 26)
- 神 西 清 「ナルシシズムの運命」(文学界, 昭和 27.7)
- 〃 「ナルシシズムの運命—三島 由 紀夫論」(文学界, 昭和 24.3, 講談社「散文の運命」所収, 昭和 32.8)
- 河上徹太郎 「『クロスワード・パズル』評」(文学界, 昭和 27.2)
- 武田泰淳・白井吉見 「三島由紀夫の才」(群像, 昭和27.3)
- 青野季吉・佐藤春夫・中村光夫 「三島由紀夫—現代作家論」(文学界, 昭和 27.11)
- 八木 義徳 「三島由紀夫論」(早稲田文学, 昭和 27.12)
- 日沼倫太郎 「不毛の小宇宙—三島由紀夫論」(文芸首都, 昭和 28.8)
- 湯地 朝雄 「三島由紀夫論」(新日本文学, 昭和 28.8)
- 寺 田 透 「三島由紀夫論」(群像, 昭和 28.10, 講談社『同時代の文学者』に『秘楽のこと』『潮騒』のこと「三島由紀夫氏の文学」とともに収録, 昭和 31.5)
- 白井 吉見 「『秘楽』を読んで」(朝日新聞, 昭和 28.10, 筑摩書房, 『人間の文学に, 「二の短篇集」『沈める滝』及び『金閣寺』—後出—とともに収録, 昭和 32.5)
- 浦松佐美太郎 「文壇の恐るべき子供—三 島 由 紀夫論」(別冊文芸春秋, 昭和28.2)
- 佐野金太郎 「宿命の美学—三島由紀夫論」(作家, 昭和 28.3)
- 中村 光夫 「解説」(角川書店『昭和文学全集』 23. 昭和 28)
- 大井 広介 「はらからと理想像」(文学界, 昭和 29.7)
- ドナルド・キーン 「『潮騒』評」(文芸, 昭和29.9)
- 芦 沢 節 「三島由紀夫の文章」(言語生活, 昭和 29.10)
- 沢 井 潔 「三島由紀夫氏について」(近代文学, 昭和 29.12)
- 奥野 健男 「にせナルシズムの文学—三島 由 紀夫論」(文学界, 昭和 29.3, 近代生活社『現代作家論』に『真夏の死』など「戯曲について」とともに収録, 昭和 31.10)
- 若 杉 慧 「『潮騒』」(群像, 昭和 29.8)
- 杉浦 明平 「三島由紀夫論」(群像, 昭和 30.1)
- 佐々木基一 「三島由紀夫」(文章講座 6, 文章鑑賞, 昭和 30.2) 河出書房
- 田中 澄江 「『沈める滝』の男と女」(中央公論, 昭和 30.6)
- 十 返 肇 「三島由紀夫」(講談社『五十人の作家』所収, 昭和 30.7)
- 服 部 達 「『沈める滝』評」(三田文学, 昭和 30.8)
- 日野 啓三 「三島由紀夫論」(英宝社『昭和の作家たち』Ⅲ—現代作家論叢書 7.10, 所収, 昭和 30.8.11)
- 神 西 清 「泰淳と由紀夫」(東京堂『日本の近代文学』所収, 昭和 30.7)
- 近藤日出造 「三島由紀夫」(中央公論, 昭和 30.9)
- 吉村 貞司 「三島由紀夫」(東京ライフ社, 昭和 31.2)
- 石原慎太郎 「文明批評が強靱な鑿」(文学界, 昭和 31.8)
- 奥野 健男 「三島由紀夫論」(近代生活社, 現代作家論, 昭和 31.10)
- 石原慎太郎 「三島由紀夫論」(文芸, 昭和31.11)
- 中村 光夫 「『金閣寺』について」(文芸, 昭和31.12)
- 森本 和夫 「『金閣寺』をめぐる」(現代思潮社『文学者の主体と現象』所収, 昭和 31.12) (以下次号)

◎4月1日付で 嶋田 光代(整理)

5月1日付で 江沢 佳子(〃)

日野 知子(〃)

篠原とし子(閲覧)

以上の四女性が新職員として図書館に入られました。

◎6月より図書館ニュース編集委員会が新設され、編集方針として利用者本位のもので、当面隔月刊6ページ建てていくことが確認されました。

内容については、本学図書館のみならず、広く他大学図書館、公共図書館の利用案内や新着図書紹介等、利用者に直結したものから、業務統計、会議等報告、図書館関係ニュースに至るまで、できれば利用者の読書生活に役立つような内容のものも欲しいと考えています。

◎オート・エレコン見学

7月24、25日長野市の八十二銀行本店のオート・エレコン見学到図書館から山内、池田、島田の3名が参加した。

機能的には単純な外面に似合わず正確で、異なった階へ書類等を送る場合の無駄がはぶかれる等、同銀行では成功をおさめているが、図書館へ導入した場合の利用上のメリットについては本邦図書館界では初の試みだけに注目されている。

◎夏期(7月～8月)を通して雑誌の総点検を行なった。

雑誌は受け入れ時にカードにナンバーを記入して整理しているが、その後の利用度も高いためもあり、紛失その他で受け入れチェック・カードと現物雑誌との不一致が多く見られるようになってきたので今回の照合調査にふみきったもの。

◎学内留学制度は必要か?

和光大学図書館、東京家政大学図書館等では図書館職員の学内留学制度を設けているが、単に図書館だけでなく広く他部局の職員においても大学職員としての業務を果たしていく上で語学、その他専門知識を身につける必要があると考えられるならば、今後大学制度の中でどのような形で定着させていくかが問題となるであろう。

◎本学図書館が所蔵していない図書、資料については他大学図書館・機関へ紹介します。又必要な場合には複写手続きを依頼して利用者の要求に応じています。

参考室までおいで下さい。

館
内
日
誌

編集後記

今回からあらたに島田、馬場、近江の3名が編集委員として図書館ニュースの編集を担当することになりました。

逐次、新機軸を打ち出したいと考えていますが、当面、大学当局及び利用者の間にあって、図書館が果たさなければならない役割を少しでもになっていくという気持ちで進みたいと念じています。

今回、若干の紙面変更を行ないましたが、編集内容、その他について御意見をお持ちの方は遠慮なく編集委員会(島田、馬場、近江)までお寄せ下さい。

(編集委員一同)

東洋大学図書館ニュース

Vol. 5, No. 1 (通巻12号) 昭和45年9月15日発行

編集 「図書館ニュース」編集委員会

発行人 岡 田 温

発行所 東洋大学図書館

東京都文京区白山5丁目28番20号

Tel. (946) 5231 (大代)